

わの会通信

Ver. 41

2021年1月11日発行 発行元：NPO法人わの会 住所：府中市住吉町1-60-10 TEL/FAX：042-360-3626



新年のごあいさつを申し上げます

みなさん明けましておめでとうございます。私たちは多くの方々のお力添えをいただき、コロナ禍でも、誰もが経験したことがない苦難を、力を合わせて何とか乗り越えてきました。心より感謝申し上げます。引き続きよろしくお願いいたします。2020年を振り返ると、「人災」であったことが、浮き彫りになります。現政権は医療、看護、介護従事者、

自営業など社会的弱者を苦境におとし入れたことへの何の反省もないまま、何もしない。政治とはみんなで金(税金)を出し合い、みんなで使い道を決めること。だから声を上げるしかありません。

くふうして頑張りましょう！

NPO法人わの会理事長 佐々木公一



特定非営利活動法人 **わの会**

府中市住吉町1-60-10

TEL：042-360-3626

わの会HPはこちら→



【5つの事業】

- ①府中自立支援ネットワークわの会（自立支援）
- ②デイサービスりんりん（地域密着型通所介護）
- ③重度訪問介護従業者養成研修講座（研修事業）
- ④ヘルパーステーションあいあい（訪問介護）
- ⑤わの会相談支援事業（相談事業）



コロナ禍のネットワークわの会

今までの生活が大きく変わってしまったここ数ヶ月です。感染対策をしながら取り組めることを模索しながら活動をしてきました。

項目	回数	延べ参加人数	項目	回数	延べ参加人数
大正琴・コーラス教室	13回	112名	語る会		
絵手紙教室	7回	76名	＝リモート子育て語る会	4回	22名
弁当配食／ミニデイ	3回/2回	39名/29名	＝難病語る会	1回	12名
小散歩	5回	44名	＝老いを語る会	1回	4名
畑のこと	通年	ボランティア4名	物品販売		
チマチョゴリバザー	1回	ボランティア11名	＝きょうされん	夏・冬	78名
			＝米・チョコレート他	通年	
			包丁研ぎ	2回	36本

活動の方針を話し合っていく運営委員会は7回で延べ77名の委員の方々が参加されました。「みんなでいこう」は9回発行しました。振り返ってみると、いろいろな事がありました。印象に残ったことをいくつか報告します。



畑のこと



「ニュースでスイカが出来たって載っていたけどネットワークわの会の畑って何処にあるの?」と何人もの人からのご質問がありました。事務所を借りている大家さんのご厚意で使わせて頂いている本当に小さな畑ですが作られている野菜はゴーヤ・のらぼう・ブロッコリー・トウモロコシ等々数えると10種類以上あります。主に世話をさせて頂いている直井さんは「大好きな野菜作りをわの会の仲間とワイワイ言いながら出来て楽しい1年でした。スイカのニュースを持って寝たきりの友達を訪ねたら会員になってくれたの」との事でした。畑のパワーは凄いですね。



リモート子育て語る会



コロナ禍で顔を会わせての会が出来なくなった時期に「スマホのビデオ通話を使えばできるよ」との提案を受けて始めました。語る内容はコロナの事から、学校の休校の事、子どもとゲーム、大学受験の事、日本の教育予算の少なさ等々多岐にわたっていて2時間もあっという間です。昼寝から起きた子どもの声で慌てて画面から消えたり、マグカップを片手に登場してきたりリモートならではの自由さもあって、「顔を見て話せる場」として続けていきたい活動です。

小散歩



大勢で集まれないことから始めたのが「こさんぽ」です。11月は府中の森公園に出かけました。有料老人ホームに入居されている会員さんをお誘いしました。「今年になって初めての外出です。昨夜は天気が気になると嬉しいのとで寝られなかったのよ、今日は楽しかったわ」との声をお聞きした時に「ネットワークわの会の活動の意味ってこれだ!」と実感しました。今後も、会員さんの声をいかせる取り組みを作って行けるよう事務局一同頑張っていきます。



コロナ禍でのデイサービスりんりん

4月に緊急事態宣言が出され、別の施設とりんりんをかけもち利用していた複数名がその施設において陽性者との接触があり、りんりんの利用を自粛していただくことができました。又、りんりんの利用者家族にも、利用自粛のお願いをし、10名の方のご協力をいただきました。しかし、単身の利用者やご家族の状況から、この間も毎日8～9名の利用者は、感染対策をしながら通所されました。りんりんでは新型コロナから利用者・スタッフの生命と日常を守る事を第一に取り組みました。この間のコロナ期を乗り越えるために、スタッフは話し合いを重ね、感染症対策を学び、必要な防護服をそろえ、換気に注意を払う等、スタッフ一同、足並みをそろえて、コロナ対応ができるようになりました。6月の緊急事態宣言解除後は、自粛をされていた方も徐々に戻りはじめ、通常の利用者数を上回る方々の通所とともに、9月には新利用者2名を迎えることができました。



2ヵ月に及ぶ自粛生活から戻られた利用者には、身体機能の低下、認知機能の低下が見られる方が多く、この間デイサービスを利用し続けた利用者とはあきらかに違っていました。ご家族から「りんりんに行くことで元気に過ごせていたことを感じました」「家だけでは生活リズムが崩れ、機能が低下することがわかりました」「りんりんに行かないと介護が大変。とても疲れました」などの声が寄せられています。スタッフは、利用者及びご家族にとって、デイサービスが重要な役割を担っていることを改めて確認しました。

(残念ながら、第三波は12月より強くなっています)現在、第三波においては、これまでの経験を活かし、コロナに負けない、体力・気力の維持、楽しく活気あふれるデイサービスを目指して、スタッフ一同努力してまいります。

生活相談員の高橋龍哉(たかはしたつや)です。

りんりんの良いところは利用者さんが「明るいな」と感じることができるところです。「ここは安心できる場所、この人達は私の話を聞いてくれる」と感じておられる利用者さんは少なくありません。日々の介護ケアの中で、私は強くそのことを感じております。利用者さんとの心のつながりをもっとしっかり確かなものにしなく

てはと。私は利用者さんの思いをしっかり聞き取りたいと努力しております。現在 りんりんでは常勤者とパートさんがシフトを作って日々のケアにあたっています。労働条件の違う方との一緒の仕事は、「責任は常勤者が持ちますから一緒にケアに当たってください」という気持ちです。たまに指示が錯綜してパートさんが混乱していることもあります。チームワークをしっかりと強化するためにはお互いに声を出して確認しあうこと、発信し合うことが大切だと年初めのスタッフ会議で確認し合っています。今後もっともっとそのために努力をしたいと思っています。



コロナの感染症にともない同行援護や移動支援の利用者は外出をひかえる傾向が見られたが、障害者(児)の身体介護や重度訪問介護の利用者は通常通りのサービスが求められた。新利用者もおられ、前年の同時期と比べ、訪問時間は増えている。

訪問介護事業において生じる課題は利用者の多様化する要望にどのように対応するか、制度の壁や多職種との連携、高度なスキル等々、特に今期はコロナ禍であり、担当ヘルパー会議もままならず、電話やメール等での連絡では十分伝え合うことが出来なかった。そのような状況ではあったが、ALS患者のヘルパー依頼を受け、サービス提供責任者を中心に8名でチームを作り、ケアにあたれたことは、大きな学びの機会となった。また、国が設けたヘルパーの処遇改善を当法人も取り入れ、全てのヘルパーの時給を7月より100円アップすることができた。「コロナ禍の最中、励みになっている」という声もある。これからもズームやオンライン等模索しながら、利用者さんの生活を支え、ヘルパーの働きやすさの向上のために力を注ぎたい。



ヘルパーインタビュー

山田あゆみさんは、小学5年生、2年生、双子(4歳)の4人のお母さんです。

Q:ヘルパーになったきっかけは？

第1子の産休に入る時、有料老人ホームを退職。産後就活中に、わの会にお声かけ頂き、わの会で働く事になりました。最初はデイサービスで働き、ヘルパーは1日のみ、一番下の双子を出産し復帰後、全てヘルパーとして働いています。

Q:普段どのように働かれているのですか？

毎朝、双子を保育園へ預け、利用者さんのお宅へ訪問します。通常は1日2件の訪問で火～土、9時～17時まで働いています。

Q:仕事を続けていて良かった事は何ですか？

人とのふれあいで、人の優しさや温かさを感じられる事です。例えば、慎太郎さん(写真)が痰量が多く苦しそうな時、吸引前に身体を横に向けて背中をさする事でしっかりと痰を吸引でき、呼吸が楽になります。すると「良くなったよ」「またやってね」と笑顔で言ってくれます。慎太郎さんのリラックスする姿を見ると、私も嬉しくなります。良い関係が築けると実感します。やりがいも感じ嬉しくなります。利用者の皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。



Q:ストレス発散方法は？

まだ子供が小さいので、自分の時間はほぼないので、子供たちと遊んだり、食事作りをしたり、買い物をしたり…皆で仲良く笑いあっているうちに、疲れも取れてしまいます。あとは、寝ることです。子供を寝かしつけながら私が先に寝て、「ママもう寝ちゃったね」と笑い声が遠くに聞こえる時も癒されます。コロナが落ち着いたら、子供たちと旅行でも行きたいな～と考えています。

Q:未来のヘルパーさんへのメッセージを！

在宅のお仕事は、各家庭、利用者さん毎でやり方やケアの方法が全く違うので覚えるまでは大変だと思いますが、在宅だからこそ利用者さんとゆっくりじっくり納得がいくまで関わる事が出来るのが大きなメリットで、楽しくお仕事する事ができます！どうぞ皆さんも一緒にヘルパーしませんか？



受講生の感想

2ヵ月前に他界した義父が在宅3週間で急変でした。コロナじゃなければもっと早く実習ができて、口腔ケアを見学したのでやってあげたかったなぁとも思いました。利用者さんの食事形態もちょっとビックリしました。普通すぎて…。勉強になりました。

今年度上半期は7月と8月の2回実施し、合わせて25名の受講生がおられた。コロナ禍のため、感染症対策は検温（起床時と午後講義前）2回実施、アルコール消毒。会場の換気棟、できる限りの対策のもと実施した。その結果、あいあい所属の受講生20名中、11月19日時点で一人だけ出来た者が10名、研修中3名、退職1名、休職1名、未研修5名となっている。

かねてよりALS患者の利用者ご本人とヘルパーより、文字盤の扱い方について、文字盤教室を開いてほしいとの要望があり、10月開催時に呼びかけたところ、4事業所より5名の参加者が聴講しました。今後も同様の課題が挙げた際に「学びの場」として重度訪問介護従業者養成研修の在り方を検討して行きたい。同行援護従業者養成研修はコロナのため開催予定を延期しているが、状況次第では再開していく予定です。

重訪研修で資格を得、2年間の介護アルバイトを終え、

この4月から小児病院に就職予定のAさんより

私は4月から、コロナで行事などほとんどできない状態の小児病棟に勤務します。これまでの実習ではプレイルームも閉ざされ、患^{かんこ}子さんたちは、ベッド上でしか遊べない様子でした。面会も制限されていて、さみしそうでした。私はコロナ禍にあっても楽しく闘病できるような思い出が作れるように、日々のかかわりを大事にできる看護師を目指しています。又、病棟では、消毒や手洗いはいつもよりよくやっていたが、消毒液も十分ではないようで、手洗い中心でした。現場には、いろいろ苦労があることもわかりました。免疫力がおちている子供たちなので、私たちが菌を持ち込まないようにと気をつけました。

4月からその中で働くことは「怖いな」との思いもありますが、それ以上に「子供たちの力になってやりたい」と今は国試に向けて必死で勉強しています。私1人ではできないことですが、先輩や同期の看護師たちの支えあいがきっとあると信じて頑張りたいと思っています。



登録者数78名、新規登録者数9名、休止1名



2020年度は相談員を2人体制にすることができ、チェック体制の強化、相談の質や量のレベルを上げる努力をしました。新型コロナウイルスによる影響はそれぞれの利用者さんにあらわれたものの相談数は減ることなく、月平均にすれば相談件数が増えています。

月一回のスーパーバイズを行い、新相談員への法人内の研修も実施できました。その他、調布市市民メンタルヘルス講座に参加し、心の病気の基本的な理解、当事者の体験や現在の治療について等、生の声を聴き学びを得ました。

2月27日に首相が全国の小、中、高、及び特別支援学校に臨時休業を行うよう要請してから、特に特別支援学校に通う児童とその家族に影響が出ました。放課後等デイサービスができる限り対応することで、子どもたちの行く場所が確保できたものの、キャパシティは限られており、結局は保護者とともに過ごすこととなったことで、家族の負担が増えるほかなくなっていました。

4月7日、東京は緊急事態宣言が発令され、通所サービスが休所になり、事業所において電話による確認がサービス利用予定日におこなわれていましたが、引きこもってしまう人、体調を崩してしまう人も多く、9月頃になってやっと安定を取り戻した感があります。

訪問介護や重度介護において、特に家事援助に類する支援について、支給量を増やすことが難しくなったように感じている。市は「介護保険になったらこのサービスは使えなくなってしまうから、自分でできる様にしてください」との口頭での指導もありました。アセスメントが不足しているかもしれないし、自立した生活がサービスの目的になっているのは理解できますが、行政からは暮らしの支援の観点よりも支援の効率化が強く求められているようにも受け取れます。わの会相談事業としては、まだ続くコロナ禍での相談者の生活を守るために、より細かく把握し、迅速に対応することが強く求められています。

New Staff

相談支援の武田櫻(たけださくら)です。



大学時代にグループホームでアルバイトをした際、当時仕事を教えてくださった方の影響もあり、大学卒業後は移動支援・短期入所・グループホームをおこなっている事業所へ就職しました。世話人・支援員として働く中で、それぞれの事業形態での関わりを学ぶことができました。短期入所や移動支援では、「今日、事故やケガなく、無事に自宅へ帰ってもらう事、安心して利用をしていただく事」を大切にしていました。わの会で相談員としてご利用者様と関わる中で、「その方の生活を知り、その方の生活全体を考え、本人の望む生活に必要な制度を受ける支援を行う」といった以前とは違う関わりを、先輩相談員の指導を受け、学んでおります。

また、今まで関わりのなかった制度の理解等、経験や勉強不足を日々痛感していますが、微力ながらお役に立てればと思っております。生まれ育った府中を自転車で走り回りながら、慣れ親しんだ土地での新たな出会いに喜びを感じています。よろしくお願いいたします。



2020年わの会全事業上半期総括報告

事務局長 志鎌哲

1. 上半期トピックとして

- ・新型コロナウイルスへの対策として。専門家や役員を交えた対策会議を複数回開き、対応の流れを定め共有することができた。
- ・感染に対する不安は、自分が感染するよりも、スタッフが感染を広めてしまうのではないかと不安があった。しかし、ヘルパーの場合は利用者や家族より「コロナも怖い、ヘルパーが来ないことはもっと怖い」という声もあり、休むに休めない状況があった。世の中を動かす欠かせない仕事である「エッセンシャルワーク」をわの会も担っていることを実感する

2. 収支報告

- ・コロナの状況下あり、昨年と比べて各事業とも収益が上がっている。「エッセンシャルワーク」としてニーズが減らなかったことと、昨年上半期にはなかった特定処遇改善加算の分、利用者(利用時間)増がその理由として確認できた。

3. 介護スタッフの増員確保について一定の成果

- ・今年度はハローワークや求人広告業者への依頼等、これまでになく予算をつけ介護スタッフ確保の取り組みを行ってきました。4月より相談支援員が1名増、ヘルパー事業所では夜勤のヘルパーが3名新たに増え、重度訪問介護ヘルパーも養成研修を2回実施したことにより学生を中心に十数名の増員がありました。ヘルパー高齢化への対応、スタッフの長時間勤務の解消、利用者が望むヘルパー派遣を十分に行えるようになるなど一定の成果を得ることができています。引き続き強化を進めます。

4. 介護と福祉を取り巻く状況

- ア. 2021年に報酬改定があり、介護保険は0.7%のプラス改定となった。しかし基本的な介護報酬は変わらず、プラス分は「科学的介護」の名の下に国が進めたい介護データベース化に回され加算として付けられる(ADL加算や口腔ケア加算、機能訓練加算など)形となっている。
- イ. 現在介護保険で進められている議論は2025年問題(団塊の世代が後期高齢者になりニーズが増大する)だけではなく、2040年問題(少子化による現役労働者の減少)が視野に入れられており「制度の持続可能性(財源不足)」「人手不足の中、介護サービスをいかに効率よく回すか」がテーマとなっている。障害においても0.56%増(うち0.05%が感染症対策)だが、人材不足を補うためにICTを使った効率化やコロナ対策に増加分は回され、報酬は「メリハリのある」報酬設定となり「削るところは削り、つけるところにつける」すなわち事業ごとと事業者ごとに格差が生まれる懸念が生じている。
- ウ. 制度の持続可能性や事業の効率化は必要かもしれないが、それは介護を必要とする人々やそれを支える介護労働者のためのものか。誰のためなんのための介護か。主客転倒したまま続くこの状況に不安を強く感じる。そして新型コロナウイルスの蔓延が続く中、わの会にできることは何か。状況を見据えながらの新しい変化が求められている。

3 冊目の小説に挑戦 喜寿のお祝いに！

府中市在住の視覚障害者の森尾知佐子さん（77歳）が、昨年10月小説『父と娘』を出版しました。43歳の時大阪から東京に来て半年、目に違和感を覚え、徐々に視覚を失いました。あいあいとの出会いは、2005年当事業所が開設して間もなくの頃です。現在半寝たきり状態で毎日介護サービスを受けている森尾さんにインタビューをしました。



Q: 今回、自作の本(3冊目)を出版しようとしたきっかけは何ですか？

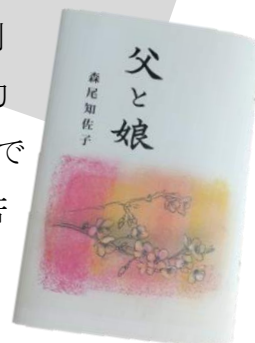
今回のきっかけは・・・最初の本作りが楽しかったので、三冊目になりました。失明した上に寝たきりになり絶望していた頃、何が自分にできるのか・・・大好きな文章を書くことならできるかも・・・と、私が言葉で伝えたことをそのまま友人が原稿に綴り、小説を書き始めました。すると、小説を創作することが楽しくて、他のことが何も気にならなくなりました。

また、その本をきっかけに、多くの方々との出会いがありました。その頃の皆さんとは、今でも親しくしています。社会福祉協議会の「朗読友の会」には、本のテープおこしで今回とてもお世話になりました。

Q: 視覚障害者でおられながら、どのように原稿をおこし本を出版したのでしょうか？

千葉の友人は、無料通話で原稿を起こしてくれ、他にも多くの方に、原稿の書き起こし、清書、校正を手伝って頂きました。また、ヘルパーさんに絵画の先生と書道の先生がいらして、表紙の絵と題字をお願い

しました。この本は、今の介護制度で感じること、私が考える理想的な介護をテーマにしたフィクションです。制作途中は1冊目と違って、苦労も多くありましたが、出来てみれば一番満足のいく本となりました。



Q: そんなエネルギッシュな森尾さんの健康法(ストレス解消)はなんですか？

自分では思いつきませんが、食事に気をつけ、好きな音楽を聴いたり、適度な運動をすることでしょうか…。そうそう、ラジオ番組の投稿もいいストレス解消です。前回は、景品でTBSラジオのロゴ入りバスタオルを頂き、ちょっとした楽しみです。

Q: ヘルパーさんへ一言お願い致します。

とにかく感謝しかありません。今の生活がストレスなく生活できるのも、夫婦円満なのも、ヘルパーさんがきてくれるからで、本当に感謝感謝です。

※朗読友の会...視覚障害者の為に本や雑誌を読みテープやCD. に録音し、郵送したり、サポートする府中市のボランティア団体

『父と娘』の本をご希望の方に贈呈致します。ご希望の方は、あいあい（042-336-7445）までご連絡ください。